

凡 例

一、『兵庫県百五十周年記念 兵庫県史』この五十年の歩み』は、兵庫県百年史以降の昭和四十二年から平成三十年までを対象とし、「序」「第一編」「第二編」「第三編」「第四編」「結」からなるが、この巻は第四巻として「第四編」「結」を収める。

一、「第四編」の対象とした時期は、平成十八年から三十年までであるが、叙述の都合でその前後に及んでいるところがある。

一、「結」は、この五十年の歩みを次代につなげられるよう、歴史を大きくつかむ視点から兵庫県の「これまで」と「これから」について記した。

一、文中の年号は、和暦を用い、節の初出ごとに（ ）で西暦を付記した。

一、本文の記述は、原則として常用漢字・現代仮名遣いを用いた。ただし、固有名詞などで常用漢字以外の漢字を用いた箇所もある。

一、人名や、難読または誤読のおそれのある語句には、原則として章の初出ごとに振り仮名を付した。

一、人名は、原則として敬称を省略した。

一、市町名を旧名で記した場合は、原則として節の初出ごとに（ ）で発行日現在の名称を記した。

一、度量衡は、記述の内容により尺貫法も使用した。

一、本文中の写真・図・表にはそれぞれ通し番号を付し、出典を（ ）で記した。図・表は巻末に一覧を掲げた。

一、本文の叙述は多くの研究成果に依拠しているが、本書の性格上、典拠を省略した。ただし、引用した場合は「 」で示し、出典を（ ）で記した。なお、参考にした主な文献は巻末に掲げた。

一、執筆分担者は巻末に一覧で示した。

一、史料に基づいた本文の叙述の中には、不適切である等の理由により現在では用いられていない用語や、今日の社会通念によるものとは異なる表現もあるが、史実を正確に記録する観点から、そのまま用いた。

兵庫
庫
県
150
周
年
記
念

兵庫県史

この五十年の歩み

第四卷

目次

口絵

凡例

第四編 二二世紀兵庫、災後の時代

はじめに

第一章 地方分権改革の新たなステージへ

第一節 政権交代、大災害、人口減少時代の県政

一 井戸県政期・後期（平成十七（二〇〇五）年八月―令和三（二〇二一）年七月）

二 政権交代から「自民一強」へ

第二節 人口減少局面での厳しい財政運営―震災の負債と地方の困難

33

9

9

9

3

1

一	条例に基づく新たな行財政改革―国の改革と県財政への影響	33
二	災害後の日常化を目指して―リーマンショックと行財政改革の継続	43
	第三節 行政組織改革の新展開	49
一	第二次地方分権改革と関西広域連合	49
二	新時代に対応した組織・制度改革	56
三	県政一五〇周年	58
	第四節 成熟社会における市町連携	60
一	市町関係の県組織の見直し	60
二	市町連携の新展開	62
三	地域再生に向けた試みの後押し	69
	第二章 復興フォローアップと減災社会の構築	75
	第一節 残された課題と復興教訓の活用	75
一	復興一〇年目以降の取組	75
二	復興のフォローアップ	78
三	震災から二〇年への歩み	80
四	東日本大震災・熊本地震の被災地支援と復興の制度化	83

五 復興の残された課題への取組 86

第二節 震災後の新たな災害発生と減災・縮災への取組……………89

一 地域災害と広域災害等の発生 90

二 減災・縮災対策の推進 104

三 南海トラフ地震への備え 111

四 連続災害の発生―災害多発時代への備え 114

第三章 グローバル化と力強い兵庫経済づくり……………119

第一節 生活や地域を支える産業力強化と働きやすい環境の整備……………119

一 リーマンショック後の県内産業経済 119

二 新時代に対応する地域の商業力強化 135

三 深刻化する労働力不足とワーク・ライフ・バランスの推進 144

四 県の経済・雇用活性化に向けた取組 153

第二節 二一世紀における兵庫の農林水産業……………158

一 農家の所得安定対策をはじめとする日本の農林水産業政策の変化 158

二 地域の特性を活かした力強い農林水産業の展開 163

三 国家戦略特区における養父市の戦略 168

四 二一世紀の兵庫県における林業・水産業の動向 172

第三節 科学技術の産業活用の進展とITによる構造改革……………174

一 最先端研究施設の産業活用 174

二 ITによる構造改革 184

三 IT分野の人材育成と研究教育拠点の形成 198

第四章 地域の再生と安全な地域づくり……………205

第一節 都市再生と地域創生……………205

一 人口減少と高齢化の中で 205

二 二一世紀兵庫長期ビジョンの改訂に基づく地域づくり 206

三 都市再生への本格的取組 211

四 地域創生 214

五 交流と連携の地域づくり 222

第二節 良質な住宅ストックづくりとオールドニュータウンの再生……………224

一 住宅政策の動向 225

二 空き家対策 233

三 住宅団地を巡る動向 235

四 市街地整備事業 237

第三節 成熟社会における景観緑化政策…………… 239

一 人口減少下の緑地・公園管理と景観づくり 239

二 景観政策の展開 241

三 県民主体の緑化の推進 246

四 成熟社会における公園の再整備 250

第四節 社会基盤の強靱化へ…………… 255

一 減災を基本とした社会基盤整備の展開 256

二 転機を迎えた上下水道事業 270

三 持続可能な下水道事業の展開 273

第五節 安全な交通基盤の整備の進展…………… 276

一 道路・交通の整備進展と安全対策 278

二 三空港・三港湾の一体運営 286

第五章 人と自然が共生する環境優先社会…………… 291

第一節 「低炭素」から「脱炭素」へ…………… 291

一 福島第一原子力発電所事故と本県への影響 291

二	持続可能な開発目標（SDGs）の設定、パリ協定の採択	294
三	兵庫県の温暖化対策	296
四	地域における脱炭素社会に向けた取組	300
第二節	地域における環境負荷の低減	305
一	循環型社会の実現	305
二	地域環境への負荷の低減	309
三	瀬戸内海の再生	319
第三節	広がりを見せる自然保護への取組	323
一	生物多様性保全の取組	323
二	里山の再生	329
三	縮退社会における野生生物の保護・管理	333
四	ひょうごの自然の魅力の再発見	336
第六章	県民主役の地域づくりと多文化共生社会	339
第一節	民による公益増進と女性活躍の時代へ	339
一	震災一〇年、県民が主役の地域づくりへ	339
二	女性活躍への期待	349

	三	複雑化・多様化する消費者問題	362
	四	地域の安全のために	371
	第二節	新時代に向けたたひょうごの芸術文化	381
	一	芸術文化立県ひょうごの展開	382
	二	古きをたずねて新時代へ	390
	第三節	スポーツ立県“ひょうご”を目指して	397
	一	スポーツ振興のプログラム化	397
	二	市民レベルのスポーツ大会の発展	406
	三	多様な障害者スポーツを目指しての展開	411
	四	競技スポーツの興隆と国際交流の進展	416
	五	公営競技の新展開	418
	第四節	グローバル化と多様化の国際交流	420
	一	グローバル化への対応	421
	二	多文化共生社会を目指して―ひょうご多文化共生社会推進指針	429
	第五節	ツーリズムの新展開	437
	一	観光立国の推進と県観光施策の総合的展開	437
	二	県内観光誘客に向けた多角的取組の展開	441

三	外国人観光客の急増—インパウンドの急拡大	452
---	----------------------	-----

第七章 少子高齢社会下の福祉・保健医療の拡充

第一節	子育ての困難に応じた子ども・家庭支援の展開	455
-----	-----------------------	-----

一	少子化対策から子ども・子育て支援へ	455
---	-------------------	-----

二	待機児童対策の強化	460
---	-----------	-----

三	児童虐待の増加と社会的養護の質的転換	464
---	--------------------	-----

四	障害児施策体系の改革と発達障害児支援の拡大	469
---	-----------------------	-----

五	子どもの貧困への着目	472
---	------------	-----

六	ICT環境に翻弄される青少年	475
---	----------------	-----

第二節	地域で支え合う福祉の深化	479
-----	--------------	-----

一	被災高齢者の自立支援に向けて	479
---	----------------	-----

二	高齢者を地域で支え合う体制づくり	481
---	------------------	-----

三	障害者の総合的な生活支援	486
---	--------------	-----

四	地域福祉体制の拡充に向けた県の取組	489
---	-------------------	-----

五	ユニバーサル社会づくりの推進	490
---	----------------	-----

六	自殺対策に向けた取組	494
---	------------	-----

第三節	少子高齢社会の健康医療対策……………	496
一	少子高齢社会の健康対策……………	496
二	二一世紀における医療対策……………	499
第四節	社会福祉の多角的展開と到達点……………	514
一	貧困問題への社会的注目の高まりと対策の強化……………	514
二	年金記録問題の発覚を背景とした年金制度の見直し……………	522
三	母子・父子福祉からひとり親家庭の支援へ……………	525
四	ドメスティック・バイオレンス対策の拡充……………	528
第五節	人権問題の複雑化・多様化への対応……………	531
一	二一世紀が人権の世紀になるために……………	531
第八章	人口減少期の学校や家庭・地域での教育……………	543
第一節	新しい時代に向けた学校教育の創造……………	543
一	教育基本法改正と「ひょうご教育創造プラン」の策定……………	543
二	教育課題の克服と個性・能力を伸ばす学校教育の創造……………	546
三	私学の特徴化と高校教育無償化の取組……………	574
第二節	十八歳人口減少期で問われる高等教育……………	579

- 一 十八歳人口減少期下にも多様な活動を展開する大学・短期大学 579
- 二 実践的な職業人を育成する専修学校等 588

第三節 生涯学習社会の進展と家庭・地域での教育……………592

- 一 生涯学習社会の進展 592
- 二 生涯学習社会の構築とその担い手 595
- 三 生涯学習の基盤の整備―情報の提供と学習活動及び交流の支援 597
- 四 社会教育・生涯学習の領域拡大 597
- 五 家庭と地域の教育力の向上―「共育」の推進 601
- 六 次代を担う青少年の学習基盤の整備と様々な取組の推進 603
- 七 生涯学習社会を支える社会教育・生涯学習施設の拡充 609

結 歴史を大きくつかむ 「ひょうご五国」のこれまで、これから……………617

- 一 「ひょうご五国」への昇華と「起・承・転・結」の構成 619
- 二 「戦後」のダイナミズムと五〇年史との相関関係 624

年表 付兵庫県知事一覧（昭和四十二年～平成三十年）……………633

兵庫県知事一覧（昭和四十二年～平成三十年）

648

あとがき

649

コラム

スーパーコンピュータ 203

全国学力・学習状況調査の結果をどう

する？

561 「数学・理科甲子園」とジュニア大会

563

「人と防

災未来センター」に開設の減災復興政策研究科

582

〔巻末付録〕

執筆者一覧

県史編纂関係者名簿

資料提供者並びに協力者

図・表一覧

参考文献一覧

